



内の倉ダムコンサート

—ダム空間音楽が織りなす・地域とのハーモニー—

わかつき まなぶ
若月 学*



キーワード：内の倉ダム、ホローグラビティ型式、コンサート、音響、ダムカレー、堀部安兵衛、ダムマニア、ダムリバーブ、残響

はじめに

ダムコンサートといえば、皆さんはダムの湖畔で湖畔林の木漏れ日を浴びながら優雅に音楽を楽しむイメージやNHK紅白歌合戦(2002年)で中島みゆきさんが黒部川第四発電所駅構内のトンネルで演奏した様子などを想像するに違いありませんが、「内の倉ダムコンサート」は、内の倉ダムの中にある構造上の大空



写真-1 コンサート風景

洞が生み出す(大聖堂でパイプオルガンが響き渡るような)残響音を楽しむでもらうコンサートです(写真-1)。2002年に初めて開催し、今年2019年で18年目となります。

1. ダムのあるところ

内の倉ダムは、新潟市中心部より約60kmに位置する新発田市内の(図-1)山間地に、内の倉川の川面から約80mの高さでそびえ建っています。

ここを訪れた人は、まさかこの無機質なコ

ンクリート製のダムの中にこんなに大きな空間があるとは夢にも思わないのではないのでしょうか。

内の倉ダムの湖畔には、一回りできる湖周線が約8kmに渡って走っています。湖周線沿いには公園がいくつかあり、新発田市内外から、春は新緑を愛で、夏はキャンプやバーベキューに、秋には紅葉狩りにと多くの人々が訪れる憩いの場となっています。



図-1 新発田市の位置

2. 農林省初「中空重力式ダム」

内の倉ダム関連の国営加治川農業水利事業は、1964年に着工し、10年の歳月と約117億円の事業費を要して遂に完成に至ります。

また、内の倉ダムは全国でも数少ないホ

ローグラビティ型式(中空重力式)を採用し、加治川沿岸の既耕地約7,500haの渇水補給と上水道供給や洪水調節などの目的をそなえた多目的ダムとして整備されています。

建設当時、ダムの形式を検討するにあたり、ダム建設用地左岸側地盤が不良のため、アーチ型式、重力型式、ロックフィル型式などについて技術面、工事施工面、築堤材料面、不良基礎の処理などについて検討した結果、施工後における揚圧力の軽減、堤体挙動の監視など維持管理が容易なホローグラビティ型式(中空重力式)(写真-2・図-2)が、農林省として初めて採用されることとなりました。

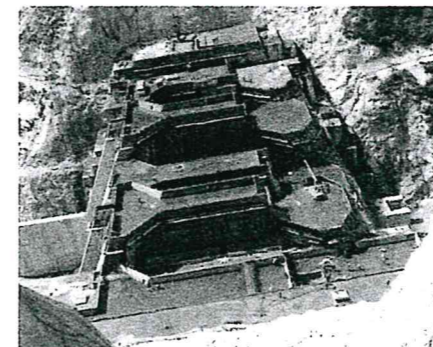


写真-2 中空構造《提供：(株)安藤間》

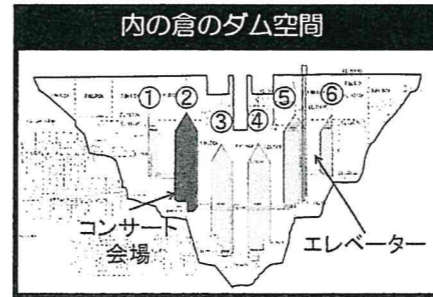


図-2 ダム内にある6カ所の空洞

3. 脱ダム宣言とダムコンサート

初めてダムコンサートを開催した2002年といえば、2000年に「反対運動のあるダム計画の中断・見直し」を公約に掲げた田中康夫氏が長野県知事選に当選し、「脱ダム宣言」(2001年2月)を受けて全国的にもダム建設に対する批判的関心が高まったときでもありました。

そうした中、新発田土木事務所(現新潟県新発田地域振興局)と「広く市民に『ダムの

多様性』を知ってもらうため、地元の人々が中心となって何か出来ないか」と相談し、内の倉ダムからの水が流れ込む加治川流域で活動する環境団体「加治川ネット21」のメンバーを中心に「ダムを奏でる会」を立ち上げ、内の倉ダムの構造特性を活かしたダムコンサートを企画し、官民連携を基軸に運営を行うこととなりました。

4. ダム内部を試奏者に開放

当初は、市内で活動する音楽愛好家の方々に声をかけ、演奏してくれる方を探していましたが、数年もすると新たな出演者を探し出すことが困難になり、市の広報誌でボランティアの演奏者を募集することになりました。

ところが「ダム内部での演奏会」というものが想像しにくいのか演奏者は中々集まらず、共催者の新発田地域振興局と相談して開催日を6月から10月に変更し、ダム内部の湿度が落ち着く6月から7月末までを演奏者の募集期間(試奏期間)に設定することになりました。

そのため演奏希望者は、自分たちの都合に合わせてダム内部での試奏が可能になりました。結果、演奏者は予めダム内部の残響音を楽しみつつ音の重複や残響音の長さなどを体感することができるようになり、主催者も会場と演奏者との相性などを確認しながら演奏者を選定できるようになりました。

ちなみに真夏の頃は農業用ダムとして大空洞を支える壁の外部が水に満たされているためダム内部の湿度は100%近くに達し、内気と外気の寒暖差が25℃以上と外は暑くて半袖でもダムの中では防寒着が必要でとても演奏できる状況にはありません。

5. 演奏希望者が全国に展開

第7回からはインターネットの普及により加治川ネット21や県新発田地域振興局などのホームページやブログなどでも演奏者を募集できるようになりました。

*若月建設株式会社 代表取締役/新潟県粗朶業協同組合代表/特定非営利活動法人 日本ビオトープ協会理事/ダムを奏でる会 代表世話人/特定非営利活動法人 加治川ネット21 理事

表-1 演奏種目一覧

回数	西暦	和暦	組	演奏		
1	2002	平成14	3	バイオリン・篠笛	サクソフォーン	手風琴・鳴り物
2	2003	平成15	3	オカリナ	中学校・打楽器3重奏	中学校・トロンボーン2重奏
3	2004	平成16	3	民謡	サクセス・リコーダー	シンセサイザー
4	2005	平成17	1	JAZZ (ベース・ドラム・シンセサイザー)		
5	2006	平成18	2	サクセス・リコーダー	アコーディオン	
6	2007	平成19	3	小学校・合唱	シンセサイザー	雅楽
7	2008	平成20	3	新潟県学生ウィンドアンサンブル	マリンバ	篠笛4人組
8	2009	平成21	3	JAZZ (ハーモニカ)	チェロ	篠笛
9	2010	平成22	3	オオボエ・シンセサイザー	胎内民謡の会	篠笛2人組
10	2011	平成23	3	ギター&ボーカル	箏	ポップス
11	2012	平成24	2	シンセサイザー&ボーカル	ギター&ボーカル	箏
12	2013	平成25	3	ギター&篠笛	ソロ (プロデビュー)	4重奏
13	2014	平成26	3	ハーモニカ6人組	トランペット2人組	サクセス・リコーダー
14	2015	平成27	3	尺八	ギター・ボーカル	荒川民謡友の会
15	2016	平成28	4	篠笛・ヨガ	サクセス・リコーダー	声楽・箏
16	2017	平成29	3	バグパイプ	新潟サクソフォーン協会	アカベラ・東京芸大生

※第17回・2018 (平成30) 年はダム工事のため中止/第18回・2019 (令和元) 年は台風18号上陸のため中止

インターネットでの反響は大きく、関東圏からの出演応募も来るようになりました。

こうした取り組みが功を奏し、内の倉ダムの残響音が響き渡る不思議な大空洞でのコンサートは、やがて県外にまで知れ渡るようになりました。少しずつ知名度が増してきたダムコンサートではありますが、ひとりでも多くの地域の方々に訪れてもらいたいと、第9回からは新発田市だけでなく、県新発田地域振興局管内の阿賀野市、胎内市、聖籠町の広報誌でも演奏者などを募集するようになり、今では、演奏者も聴衆者も近隣市町村や全国各地から訪れるようになっています。

様々な苦労はありましたが、このように、たくさんの方々から内の倉ダムでの幻想的な空間を楽しんでもらえるようになりとても嬉しく思っています (表-1)。

6. ダムコンサートでのおもてなし

ダムコンサートでは湿気以外にもいくつかの問題をクリアする必要がありました。

例えば、トイレや駐車場。ダム湖を一望できる屋外の公園に小さな公衆トイレはあるもののダム内部にトイレはなく、大勢の人々の集客を想定していないためダム本体や管理棟付近に大きな駐車場はありません。また、観光施設として整備していないため、ダム堤内

の管理用エレベーターは1台 (7人用) で、堤体上部から50m下の終着点までは片道約1分30秒 (往復約3分) を要します。

もちろんバリアフリー化はされていませんし、ダム内部の室温が低い (約14℃) ことなども総合的に判断して、参加要件は小学校4年生以上、寒さ対策として必ず防寒装備を用意するよう募集要項にうたっています。

また、聴衆定員は80名とし、事前申込の段階で聴衆者に注意事項をしっかりと説明し、全員の氏名、住所、電話番号、メールアドレスなどを確認して、スタッフを含む全員分の保険加入を行うなど万全を期しています。

こうした様々な問題をスタッフの創意工夫で1つ1つ解決し、演奏者にも聴衆者にも気持ちよくコンサートを楽しんでもらう「おもてなし」を心がけています。

7. 毎年工夫を重ねる舞台装置

ダム内部の大空洞という特殊な環境でのコンサートということもあり、演奏者の機材配置や入念な音響チェックを行い、気持ちよく演奏してもらえるよう心がけています。

堤内構造の関係で会場が上下2段に分かれることから、演奏者を直接目視できない方々のために大型スクリーンを配置するなど、皆様に満足してもらえるよう心がけています。

また、演奏終了後のエレベーター待ちでは、全員が堤体上部まで移動するのに1時間以上かかるため、ダムコンサートでの演奏とは別に聴衆者のうち楽器を演奏できる

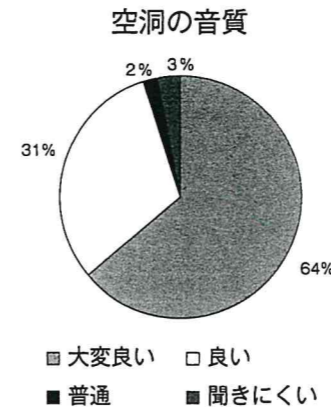


図-3 毎年聴衆者に実施しているアンケートより

方々がそれぞれの楽器を持ち寄り、この待ち時間を利用してダムの響きを楽しむ一幕もあり、リピーターとして参加されている聴衆者の皆様もこの不思議な空間での演奏会を楽しんでくれている証 (図-3) だと感謝しつつ、その好意にとっても感謝しています

8. コンサート会場から結婚式場へ

2013年5月、ダム愛好家として高名な宮島咲氏ら「ダムマニア」の方々がダム内部で結婚式を行いました (写真-3)。

この奇想天外な出来事には当時の県の担当者もビックリ。宮島氏曰く、内の倉ダムは国内に13箇所しかない中空重力式ダムのひとつであり、既に「ダムコンサート」を行っている実績から新潟県に結婚式の開催を打診したとのこと。

当日、宮島氏は神父に扮し『ダム年鑑』を手に参列者全員で賛美歌を歌い、挙式を盛り上げていました。また、新郎新婦は「ダムのように堅実な夫婦になりたい」と述べるなど、とてもユニークな内容で、参加者は首都圏をはじめ、遠くは京都府や愛知県から約40名が参加し、晴れの門出を祝っていました。

ダムマニアの方々が「内の倉ダム (中空重力式ダム)」を聖地に見立て「賛美歌を歌う場所」に選択してくれてとても嬉しかったことを覚えています。



写真-3 ダム婚 (結婚式) の様子

9. 県管轄で「ダムカードNo.1」に輝く

国土交通省と独立行政法人水資源機構では、より多くの方々にダムに対する関心や理解を高めてもらいたいと、2007年度から両者が管理するダムの「ダムカード」(写真-4) を発行し、ダムを訪問した方々に配布しています。

カードの大きさや掲載する情報項目などを統一し、表面はダムの写真、裏面はダムの形式や総貯水容量などの基本的な情報のほか、ゲートの種別やこだわり技術 (ダムを建設したときの技術) など、ちょっとマニアックな情報も掲載されています。

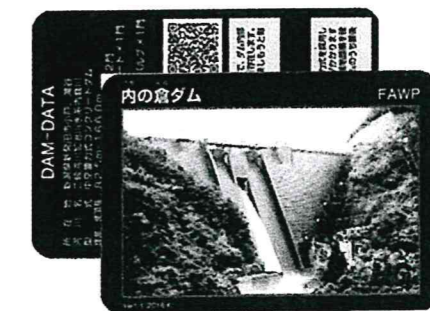


写真-4 内の倉ダムカード

現在では、国土交通省と水資源機構が管理するダム以外にも、一部の都道府県や発電事業者が管理するダムで発行するようになり、新潟県内では約30ヶ所のダムでダムカードが発行されています。

2017年度には、内の倉ダムが新潟県が管理する20ヶ所のダムの中では一番多い発行数を記録するほど、人気が高まっています。

10. ダムカレーにも挑戦

ダムコンサートの開始から10年目の2012年、当時、新発田市が新潟県内一の生産量を誇る新発田産アスパラガスを使ったB級グルメとして、市内の飲食店で緑色のアスパラピューレを使用した「ダムカレー」の提供を始めました(写真-5)。

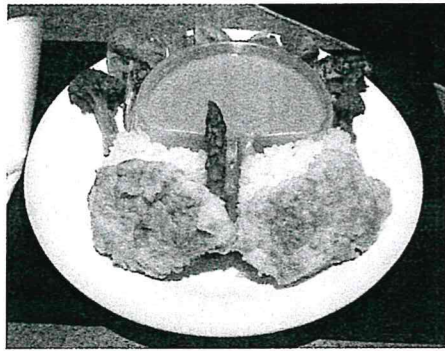


写真-5 「ぐみの木」のダムカレーはマツコの知らない世界でも取り上げられて有名に

ダムカレーとは、文字通りダムをモチーフにしたカレーで、日本ダムカレー協会(2007年創設)によると2019年6月8日現在、国内で174種類以上の数があるようです。

新潟県新発田地域振興局では、2011年に新発田市で開催された国際ご当地グルメグランプリに参加していた市内飲食店で組織する「しばたアスパラカレー隊」に「ダムカレー」の創作を打診したところ、その隊長が「面白そうじゃん!」と興味を示してくれて、市内3店舗が協力し、ダムカレーの提協を行っています。

11. ダムコンサートからメジャーデビュー

2013年、東京でライブ活動を行っているミュージシャンの旅流草一郎氏からダムコンサートに参加したいと連絡がありました。

奇しくもこの年、赤穂四十七士の一人、新発田出身の「堀部安兵衛武庸」を顕彰する団体「武庸会」の発足100周年にあたり、新発田市内で様々な催しが企画されていたため、

旅流氏に市との連携事業として新曲を作成しダムコンサートで披露してはどうかと提案したところ、以前から交流のあった堀部安兵衛顕彰団体からの依頼もあり新曲「堀部安兵衛」が誕生することになりました(写真-6)。

これをきっかけに旅流氏はCDデビューを成し遂げ、その後も度々新発田を訪れ、堀部安兵衛の父・中山弥次右衛門の菩提寺である長徳寺でコンサートを開催し「堀部安兵衛」を披露するなど地域の応援歌として定着しています。



写真-6 堀部安兵衛/旅流草一郎(ユニバーサルミュージック合同会社)

12. 手づくり郷土賞で奨励賞

全国各地で地域特有の貴重な地域資源を見直し積極的に活用した魅力ある地域づくりを行っている団体を表彰する事業として、1986年度に国土交通省は、「手づくり郷土賞」を創設し、応募は活動団体と地方公共団体(都道府県や市区町村など)が共同で行います。

この事業の創設30周年の節目の年に折角なので応募したところ、奨励賞を受賞しました。後日、県部発田地域振興局を会場に国土交通省北陸地方整備局飯豊山系砂防事務所所長による賞状伝達式も行われています。

本選のプレゼンテーション(写真-7)では、ダム内部の大空洞を活用したコンサートというアイデアを評価され、ダム内部という特殊な環境から開催時期が限られているのは非常に残念だとの講評をいただきました。

13. ダムマニアの音楽研究者現る

ダムマニアであり東京芸術大学大学院音楽研究科の学生でもある田中克氏は、堤体内の



写真-7 「手づくり郷土賞」発表風景

残響に魅了されたことがきっかけで内の倉ダムを活用した制作や研究を2017年から行っています(写真-8)。

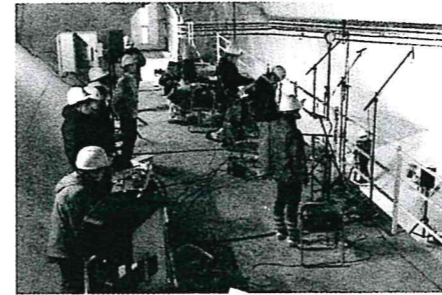


写真-8 2019年8月音楽作品録音の様子

田中氏は「内の倉ダムの類い稀なる響きに対して音楽や音響の専門的観点からアプローチすることで、まだ誰も聴いたことのない音楽表現を実現できる」という信念に基づき、ダム現地での音響測定の結果を踏まえながら堤体内の空洞に最適化されたコンテンツを制作しています。2017年の第16回演奏会では、内の倉ダムのために書き下ろされた無伴奏声楽曲が初演されました。また2019年8月には、田中氏とその指導教官である亀川徹教授を中心とした合計23名のメンバーが、測定や音楽作品の制作・録音のために5日間にわたる合宿を実施しました。

田中氏らが実施した音響測定の結果、一般的なコンサートホールは500Hzの残響時間が

2秒前後であるのに対し、内の倉ダム堤体内の空洞は同じ音域において22秒もの残響時間を有することが明らかになりました。こうした取り組みの成果物が、2019年一般社団法人日本オーディオ協会学生制作音楽録音コンテストで最優秀賞を受賞しました。ご興味をお持ちの方は「ダムリバーブ」や「かさねぎリストバンド」といったキーワードでウェブ検索をお願いします。

おわりに

今回これまでの活動を振り返り、改めていかに多くの方々に支えられて継続してきたかを実感することができました。発足当初から事業共催者として多大なるご支援を賜りました新潟県新発田地域振興局の皆様にはこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

また、過去にご出演いただきました演奏者の皆様、運営にご協力いただきました新発田市やNPO法人加治川ネット21の皆様、側面支援をいただきました農林水産省北陸農政局加治川二期農業水利事業所、国土交通省北陸地方整備局飯豊山系砂防事務所、(株)安藤・間の皆様にも感謝しながら、これからも私たちの生活を支えている内の倉ダムが、地域の人々にとってより身近な存在であり、かつ、地域の魅力として愛され続けていくことを願って、今後も内の倉ダムコンサートを開催していきたいと思えます。

※参考文献及び写真提供

- ・内の倉ダム技術誌(S50北陸農政局加治川農業水利事業所)
- ・新潟県新発田地域振興局地域整備部
- ・(株)安藤・間
- ・旅流草一郎
- ・ユニバーサルミュージック合同会社
- ・ダムを奏でる会、NPO法人加治川ネット21